

# 「BUCK-TICK」ボーカル、桜井敦司さんを 襲った脳幹出血 高血圧が主要因

11月も半ばを過ぎ、朝夕の寒暖差は大きく、日々寒くなってきました。寒くなると、増えるのが脳卒中です。脳卒中は日本人の死因の第4位です。

脳卒中の7割は血管がつまる脳梗塞で、2割が脳実質内で血管が破綻する脳出血です。脳出血の予後は悪く、死亡率はいまだに40%近く、たとえ一命を取り留めても、退院時に自立して生活できる人は2割ほどです。

脳出血は予防が最も重要ですが、日本人は欧米人に比べて多く、高齢化とともに増えています。とくに80歳以上の女性で急増しています。

ロックバンド「BUCK-TICK」のボーカル、桜井敦司さんが10月、ライブ中に倒れ、救急搬送されましたが、脳幹出血で亡くなりました。脳出血は日中活動時に発症しやすく、発症時には血圧が上がっており、頭痛や意識障害を伴うことが多いといわれます。

どうすれば、このような悲劇を避けられるでしょうか。

脳出血には、血管の内圧が上がり出血する高血圧性脳出血と、血管壁が老化し血管がもろくなって出血するタイプ（脳アミロイドアンギオパシー）があります。

血管の老化に伴う脳出血は比較的脳の表面に近い部分、皮質や皮質下と呼ばれるところに起きます。多発することも多く、再発しやすいという特徴があります。脳出血の10~20%を占めます。

急増している高齢者の脳出血がこのタイプです。アルツハイマー病に関係するアミロイドβという物質が脳の血管に蓄積し、血管がもろくなると考えられています。

## ■ リスクを上げる喫煙、飲酒

とはいうものの、脳出血の一番の原因は高血圧で、約6割を占めます。収縮期血圧が10mmHg上がると脳出血のリスクが10%上昇するといわれています。血圧が160/90mmHgを超える人の脳出血リスクは、正常血圧の人の約9倍です。高血圧に加えて、たばこ（約1.5倍）と多量の飲酒（約1.7倍）が脳出血のリスクを上げます。

高血圧性脳出血は、脳の重要な機能が集まる脳の中央部（被蓋や視床、脳幹）で起きやすいことが特徴です。

桜井さんに起きた脳幹出血は、脳出血の10%に過ぎませんが、40～60歳の働き盛りに多く、その原因の多くが高血圧です。脳出血の中でも、とくに予後が悪く、発症後24時間以内の死亡率は高く、救急車で病院到着時に意識がない人の死亡率は60%にも達します。

そもそも脳幹は呼吸や循環、睡眠や覚醒、自律神経などの活動をつかさどる生命維持の中樞です。脳幹はその場所の重要性から数ミリリットルの出血で、重篤な意識障害や呼吸障害、四肢麻痺（ししまひ）を起こすことがあります。

脳出血の治療は進歩し、徐々に予後は良くなっていますが、いまだに生命予後は不良で、命が助かっても生活の質（QOL）が落ちます。予防に大切なのは血圧のコントロールです。とくに最近は、血液をサラサラにする薬（抗血小板剤や抗凝固剤）を飲んでいる人が多くなっています。

こうした薬は心筋梗塞や脳梗塞を防いでくれるのですが、脳出血を起こすと出血量が増え、予後を悪くします。血圧を調整し、上手に服用する必要があります。